

## 【事業の概要】

旧山陽・萩往還は、防府天満宮をはじめ周府国分寺、毛利氏庭園、周府国衙跡、萩往還関連遺跡などの歴史・文化資産を有し、まちづくりと市内の観光ルートの主軸としての役割を担っています。

しかし、旧国道2号の抜け道としての利用が多く、制限速度を超える通過車両が絶えないなど、自転車や歩行者の安全性の面で課題がありました。

単なる自動車の通り抜け道路ではなく、歩行者が安全に街の回遊を楽しめて、イベントなどで賑わいを創出できるような場所に整備することを目標に、学識経験者や関係団体、市等でデザイン策定委員会を立ち上げ取組を進めてきました。

## 【担当者インタビュー】

防府市道路課 小川淳史さん



近隣商店組合ヘデザインの説明をしている様子



歩道空間を活用したイベント「山頭火 ほろ酔い通り」

### Q. この取組におけるあなたの役割・担当は？

デザイン策定や設計、住民合意形成、工事監督員等です。プライベートでは地元キーマンの発掘やイベント主催者への働きかけなどを行っています。

### Q. 一番苦労した点、一番やりがいや楽しさを感じた点を教えてください。

通常の道路工事と異なり、地中化、ライフライン移設、照明、修景舗装、ファニチャー類など、同時に複数の工種が現場で動くため、業者間調整や地元調整に苦労しました。

しかし、説明や交渉をしていく中で近隣商店組合の皆さんが徐々に心を開いてくれ、最終的には工事が完了したエリアを活用したイベントを民間主体でやってみたいと動いてくれた時に、喜びを感じました。

### Q. あなたにとってウォークブルに取り組む「最初の一歩」はなんでしたか？ どうやってその一歩を踏み出すことができましたか？

自分の足で地域をまわった際、防府の歴史的な資源が活かされていないことを知り、沿線の活気のなさを直接感じました。近隣商店や地元の方と話す中で行政がかなり頼りにされていることを知り、なんとかしなければと思ったことがきっかけです。

### Q. 全国のウォークブル担当者へ一言！

ウォークブルに関する事業は、一品一様でまちごとに全て異なり、これが正解という明確なものもありません。だからこそ、通常の道路事業ではできないフレキシブルなアイデアを形にできたり、今まで経験することのなかったソフト事業もできたりします。地域に密着している市の職員だからこそできる仕事だと思いますので、一歩を踏み出してはどうか。